

基礎教育科目

科目名	社会科学研究方法		担当教員	西東克介・藤岡真之		
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W10001		
概要	<p>[キーワード：事実と価値、原理、傾向、方法]</p> <p>本講義は、社会科学の一専門領域である社会福祉学が、社会（自然・人文）科学全体からみてどのように位置づけられるのか、またその研究方法とはどのようなものか、についての基礎的知識を提供する。</p>					
到達目標	<p>西東</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の可能性と限界を实践との関係において理解する。 ・身近なことから社会科学を学ぶ多種・多様な材料があることを理解する。 <p>藤岡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な研究事例の内容を理解する ・研究方法の類型を理解する 					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西東・藤岡による講義概要・試験等についての説明 2. 大学での学習以前の能力の磨き方（「2」から「8」までは西東による講義） 3. 社会科学とは 4. 社会科学的発想（1） 5. 社会科学的発想（2） 6. 社会科学と公共政策論（政策科学） 7. 行政と社会福祉 8. 西洋思想の2大潮流（ギリシヤ哲学の「人格主義」とデカルトの物心二元論）と社会科学・現代社会 9. 社会科学的研究方法の類型 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 10. 意味解釈法(1)－「まなざしの地獄」 11. 意味解釈法(2)－ラベリング理論、エスノメソドロジー 12. 統計帰納法(1)－『自殺論』 13. 統計帰納法(2)－現代社会と自殺 14. 研究の具体的な進め方 15. まとめ </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 西東・藤岡による講義概要・試験等についての説明 2. 大学での学習以前の能力の磨き方（「2」から「8」までは西東による講義） 3. 社会科学とは 4. 社会科学的発想（1） 5. 社会科学的発想（2） 6. 社会科学と公共政策論（政策科学） 7. 行政と社会福祉 8. 西洋思想の2大潮流（ギリシヤ哲学の「人格主義」とデカルトの物心二元論）と社会科学・現代社会 9. 社会科学的研究方法の類型 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 意味解釈法(1)－「まなざしの地獄」 11. 意味解釈法(2)－ラベリング理論、エスノメソドロジー 12. 統計帰納法(1)－『自殺論』 13. 統計帰納法(2)－現代社会と自殺 14. 研究の具体的な進め方 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西東・藤岡による講義概要・試験等についての説明 2. 大学での学習以前の能力の磨き方（「2」から「8」までは西東による講義） 3. 社会科学とは 4. 社会科学的発想（1） 5. 社会科学的発想（2） 6. 社会科学と公共政策論（政策科学） 7. 行政と社会福祉 8. 西洋思想の2大潮流（ギリシヤ哲学の「人格主義」とデカルトの物心二元論）と社会科学・現代社会 9. 社会科学的研究方法の類型 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 意味解釈法(1)－「まなざしの地獄」 11. 意味解釈法(2)－ラベリング理論、エスノメソドロジー 12. 統計帰納法(1)－『自殺論』 13. 統計帰納法(2)－現代社会と自殺 14. 研究の具体的な進め方 15. まとめ 					
評価方法	<p>西東：レポート（1回）と感想文（1回）の平均点（試験はありません）</p> <p>藤岡：出席（50%）、試験（50%）</p>					
教材・教科書	<p>西東のレポート課題図書：茂木健一郎著『「脳」整理法』、ちくま新書、735円。</p>					
留意点						

基礎教育科目

科目名	基礎演習		担当教員	次ページ以降参照
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード W10103～W10303
概要	〔キーワード：論理的思考、情報収集・調査、言語表現、コミュニケーション〕 通年ゼミ形式の授業で、大学における学習の基礎的能力を養成する。			
到達目標	“論理的に考え、丹念に調べ、しっかりと表現できる”能力は、どのような「学問」にも共通して必要です。これは、大学での様々な学習に必要な不可欠なばかりでなく、社会福祉の実践を客観的に捉え、分析し、討論する力を育成していく基礎ともなります。本科目は、専門の異なる教員が、それぞれの専門領域の手法を生かした課題を提示し、これをゼミ(少人数のクラス)の中で、日常的に繰り返し積み重ねることにより、上記のような能力を身につけることを目指します。			
授業の内容	各ゼミの具体的な授業内容は、次ページ以降(W10103～W10303)を参照。			
評価方法	次ページ以降(W10103～W10303)を参照。			
教材・教科書				
留意点	ゼミの内容や選択方法等については、新入生オリエンテーションで詳しく説明するので、必ず出席してください。			

基礎教育科目

科目名	基礎実習			担当教員	大野拓哉
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10103
概要	<p>[キーワード: ディベート]</p> <p>いわゆるディベートを行う。すなわち、設定されたテーマについて、例えば、賛成 vs. 反対といった立場に分かれ、自分たちの主張を展開し、相手の主張を論破することを目指す。テーマの設定や司会等も徐々に履修者に任せていく。</p>				
到達目標	<p>ディベートを通じて、「論理的に考え、丹念に調べ、しっかりと発表する」力の修得を目指す。議論を厭わず、むしろ、議論に親しみ、楽しめるくらいの力量がなければ、社会福祉の援助過程で行う「権利擁護」も心許なくなってしまうかもしれない。</p>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディベートの意義を学ぶ 2. ディベートの意義を学ぶ 3. ディベートの意義を学ぶ 4. ディベートの意義を学ぶ 5. ディベートの意義を学ぶ 6. 模擬ディベート 7. 模擬ディベート 8. 資料・情報の収集方法を学ぶ 9. 資料・情報の収集方法を学ぶ 10. ディベートを行う 11. ディベートを行う 12. ディベートを行う 13. ディベートを行う 14. ディベートを行う 15. 前期の振り返り 		<ol style="list-style-type: none"> 16. ディベートを行う 17. ディベートを行う 18. ディベートを行う 19. ディベートを行う 20. ディベートを行う 21. ディベートを行う 22. ディベートを行う 23. ディベートを行う 24. ディベートを行う 25. ディベートを行う 26. ディベートを行う 27. ディベートを行う 28. ディベートを行う 29. ディベートを行う 30. 年間の振り返り 		
評価方法	<p>平常評価（ディベートの勝敗は評価の対象にはしない。むしろ、毎回、どのような姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような判定を行うかを重視する。）</p>				
教材・教科書	<p>望月和彦『ディベートのすすめ』有斐閣</p>				
留意点	<p>たとえ熱い心をもっていようが、ディベートの勝ち負けなどについて感情的になりやすい人には向かないであろう。</p>				

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	棟方達也
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10201
概要	<p>[キーワード: スポーツ]</p> <p>書籍、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等、様々な情報源からスポーツに関する題材を取り上げ、課題を見出し考察します。また、ゼミ生どうしのコミュニケーションを重視します。</p> <p>本ゼミ伝統の「岩木山登山」は必須課題です。ときどき、スポーツ活動もします。</p>				
到達目標	「スポーツ」に関する研究課題を各自で見つけ出し、結論を出す。				
授業の内容	<p>1. ガイダンス 他</p> <p>2. 大学における学習活動の基本事項</p> <p>3. 大学における学習活動の基本事項</p> <p>4. レクリエーション活動</p> <p>5. 情報源と情報収集</p> <p>6. 情報源と情報収集</p> <p>7. 課題、疑問、問題点等の発見</p> <p>8. 課題、疑問、問題点等の発見</p> <p>9. 課題、疑問、問題点等の発見</p> <p>10. 課題、疑問、問題点等の発見</p> <p>11. 課題、疑問、問題点等の発見</p> <p>12. 岩木山登山のための基礎知識</p> <p>13. 登山の計画と準備</p> <p>14. 登山の計画と準備</p> <p>15. ゼミ登山</p>		<p>16. 登山報告書作成</p> <p>17. 個別研究計画</p> <p>18. 個別研究計画</p> <p>19. 個別研究計画</p> <p>20. 個別研究計画</p> <p>21. 個別研究指導</p> <p>22. 個別研究指導</p> <p>23. 個別研究指導</p> <p>24. 個別研究指導</p> <p>25. 個別研究指導</p> <p>26. レポート指導</p> <p>27. レポート指導</p> <p>28. レポート指導</p> <p>29. 報告集作成</p> <p>30. 発表</p>		
評価方法	出席状況:30% 小レポート:20% 最終レポート50%				
教材・教科書					
留意点	<p>喫煙者お断り</p> <p>原則として、最終レポートはパソコンで作成すること。</p> <p>スポーツに関心のない人には苦痛です。</p>				

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	北村 繁
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10202
概要	<p>[キーワード: よむ・かく・きく・はなす]</p> <p>① 章の作法について学ぶ。 ②説明的な文章を読む ③他人の説明や発表を聞く ④質問をして理解を深める ⑤これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「自ら調べる」「論理的に説明する」ことを練習する ⑥これら②～⑤を繰り返して、これらの技能を定着させる。</p>				
到達目標	<p>これまでの学校で、習ったことの結果だけを暗記していませんか？ 学校のそとでは、真偽の確定したものはほんのわずかです。我々の社会は、間違いかどうかよくわからないものに満ちています。他人の言っていることが間違いでないのかどうか確かめるためには、「根拠となる事実は何か」「どう考えたか」をチェックするよりほかないでしょう。そして、それはあなたが他人に説明して理解を求めるときに、他人から求められるものでもあります。ここでは、そのようなチェックをしたり、他人からチェックされたりすることに、まずは慣れることをめざします。</p>				
授業の内容	<p>前期:1～15 「よむ・かく・きく・はなす」の基礎</p> <p>『理科系の作文技術』という本を皆で分担して読むことを通して、「仕事の文書」の書き方を学びます。「仕事の文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効です。</p> <p>また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていきます。さらに、他人の発表を聞いて、質問することで、きちんと聞いて理解し、疑問点を整理することを体験します。</p> <p>後期:16～30 「よむ・かく・きく・はなす」の実践</p> <p>初めて読む新書本程度の本をひとつ取り上げ、皆で分担して読みます。調べながら読むことはもちろんですが、内容をまとめた「レジメ」を作成し、資料を示して話すことで、発表の方法をさらに向上させます。また、ひとりの発表について、全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返します。</p>				
評価方法	ゼミへの参加状況(発表・発言の回数など)、宿題およびレポートの提出状況				
教材・教科書	理科系の作文技術(木下是雄著、中公新書)・ほか				
留意点	教科書以外にも、題材にする書籍(新書本など)の購入が必要となります。				

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	西 東 克 介																														
対象学年	W1 年	単位数・開講学期	4 単位・通年	科目コード	W10203																														
概 要	<p>[キーワード：小論文、感想文、レポート、作文、レジュメ]</p> <p>小論文等の作成能力を身につけることを第一の目標として、様々な知識を集約させる能力の基礎を養っていく。文章作成能力は、学ぶ側が少人数でないとなかなか指導しづらい能力である。だが、この能力は大学ではもちろん、社会にでても、この能力が弱いと困ることが多い。よって、本演習は、教員により学生がこの能力を磨き上げるための自らの課題を認識させていくための機会と様々な視点を提供していく場でもある。</p>																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文と感想文・レポート等の違いについて理解し、小論文が書けること。 ・レジュメを作成し、発表ができること。 ・少人数での質疑応答ができること。 																																		
授業の内容	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1.本基礎演習の概要説明</td> <td style="width: 50%;">16.マンガとアニメについて</td> </tr> <tr> <td>2.講義とは何か</td> <td>17.映画について</td> </tr> <tr> <td>3.演習とは何か</td> <td>18.ドキュメンタリーについて</td> </tr> <tr> <td>4.実習とは何か</td> <td>19.テレビコマーシャルについて</td> </tr> <tr> <td>5.作文とは何か</td> <td>20.テレビのニュースについて</td> </tr> <tr> <td>6.感想文とは何か</td> <td>21.民間テレビ局について</td> </tr> <tr> <td>7.エッセイとは何か</td> <td>22.民間ラジオ局について</td> </tr> <tr> <td>8. レポートとは何か(教員による認識の違い)</td> <td>23.NHK について</td> </tr> <tr> <td>9.小論文とは何か</td> <td>24.テレビと番組制作会社の関係について</td> </tr> <tr> <td>10.図書館について</td> <td>25.小説について</td> </tr> <tr> <td>11.全国紙の五大紙の特徴</td> <td>26.有名人による著書について</td> </tr> <tr> <td>12.本県地方紙の特徴</td> <td>27.ハウ・ツー本について</td> </tr> <tr> <td>13.インターネットによる情報収集</td> <td>28.小論文のテーマと資料探し</td> </tr> <tr> <td>14.大手月刊誌の特徴</td> <td>29.小論文作成のプロセス</td> </tr> <tr> <td>15.週刊誌の特徴</td> <td>30.小論文完成直前の作業</td> </tr> </table>					1.本基礎演習の概要説明	16.マンガとアニメについて	2.講義とは何か	17.映画について	3.演習とは何か	18.ドキュメンタリーについて	4.実習とは何か	19.テレビコマーシャルについて	5.作文とは何か	20.テレビのニュースについて	6.感想文とは何か	21.民間テレビ局について	7.エッセイとは何か	22.民間ラジオ局について	8. レポートとは何か(教員による認識の違い)	23.NHK について	9.小論文とは何か	24.テレビと番組制作会社の関係について	10.図書館について	25.小説について	11.全国紙の五大紙の特徴	26.有名人による著書について	12.本県地方紙の特徴	27.ハウ・ツー本について	13.インターネットによる情報収集	28.小論文のテーマと資料探し	14.大手月刊誌の特徴	29.小論文作成のプロセス	15.週刊誌の特徴	30.小論文完成直前の作業
1.本基礎演習の概要説明	16.マンガとアニメについて																																		
2.講義とは何か	17.映画について																																		
3.演習とは何か	18.ドキュメンタリーについて																																		
4.実習とは何か	19.テレビコマーシャルについて																																		
5.作文とは何か	20.テレビのニュースについて																																		
6.感想文とは何か	21.民間テレビ局について																																		
7.エッセイとは何か	22.民間ラジオ局について																																		
8. レポートとは何か(教員による認識の違い)	23.NHK について																																		
9.小論文とは何か	24.テレビと番組制作会社の関係について																																		
10.図書館について	25.小説について																																		
11.全国紙の五大紙の特徴	26.有名人による著書について																																		
12.本県地方紙の特徴	27.ハウ・ツー本について																																		
13.インターネットによる情報収集	28.小論文のテーマと資料探し																																		
14.大手月刊誌の特徴	29.小論文作成のプロセス																																		
15.週刊誌の特徴	30.小論文完成直前の作業																																		
評価方法	出席と本演習への取り組む態度を前提に、年度の最後に仕上げた小論文とレジュメによって成績を評価。相応の出席と態度であれば、これによる評価の違いはつけない。																																		
教材・教科書	教科書：産能短期大学日本語教育研究所著『研究発表の方法』、凡人社、2,300 円。																																		
留 意 点	上記授業内容は、基礎演習の時間の中で、わずかな時間があったときに教員が学生に説明を心がけるものである。よって、演習の中心は、小論文・レジュメの作成により、学生が自分の好きなテーマでまとめてきたものを発表し、それについて全員で討論を行うことになる。																																		

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	松本郁代
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10204
概要	<p>[キーワード:岩波新書・レジュメ・文献検索・ディベート]</p> <p>前期は、岩波新書程度の文献を読むこと、レジュメを作成して報告をすることを実際に行う。また、図書館を利用することを通して、文献検索や文献の入手方法について学ぶ。さらに、後期は、入手した文献をも参考にして、ディベートを行う。</p>				
到達目標	<p>学問に取り組むうえで、最低限必要となる基礎的な力を身につけることを目標とする。この基礎的な力は、「論理的に考え、丹念に調べ、しっかりと表現できる力」であり、この力を身につけることが、到達目標である。</p>				
授業の内容	<p>1.自己紹介およびゼミの紹介 2.文献の読み方およびレジュメの書き方 3.岩波新書を読んで報告① 4.岩波新書を読んで報告② 5.岩波新書を読んで報告③ 6.図書館利用の方法① 7.岩波新書を読んで報告④ 8.岩波新書を読んで報告⑤ 9.岩波新書を読んで報告⑥ 10.岩波新書を読んで報告⑦ 11.岩波新書を読んで報告⑧ 12.岩波新書を読んで報告⑨ 13.図書館利用の方法② 14.前期レポート執筆① 15.前期レポート執筆②</p>		<p>16.ディベート準備① 17.ディベート準備② 18.ディベート準備③ 19.ディベート① 20.ディベート② 21.ディベート③ 22.ディベート④ 23.図書館利用の方法③ 24.ディベート⑤ 25.ディベート⑥ 26.ディベート⑦ 27.ディベート⑧ 28.後期レポート執筆① 29.後期レポート執筆② 30.レポート点検・添削</p>		
評価方法	<p>演習時の出席状況:レポート=3:1の比率で評価</p>				
教材・教科書	<p>暉峻淑子(2012)『社会人の生き方』岩波新書 森 靖雄(2007)『新版 大学生の学習テクニック』大月書店</p>				
留意点	<p>演習形式のため、主体的な参加が必要</p>				

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	藤岡真之
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10302
概要	<p>[キーワード：学習法、文献読解]</p> <p>①大学での学習の仕方(文章の読み方、書き方等)を学び、②その上で文献を読み、その内容について参加者全員で議論をします。</p>				
到達目標	<p>大学で学んでいく上で必要となる基礎的な力である、学習の姿勢、文章を読む力、文章を書く力、人前で発表する力、人と議論する力などを養うこと</p>				
授業の内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 大学での学習の仕方</p> <p>3. 大学での学習の仕方</p> <p>4. 文章の読み方</p> <p>5. 文章の読み方</p> <p>6. 文章の読み方</p> <p>7. 文章の書き方</p> <p>8. 文章の書き方</p> <p>9. 文章の書き方</p> <p>10. 情報の集め方</p> <p>11. 情報の集め方</p> <p>12. 情報の集め方</p> <p>13. 発表の仕方</p> <p>14. 発表の仕方</p> <p>15. 発表の仕方</p>		<p>16. 文献読解・発表・議論</p> <p>17. 文献読解・発表・議論</p> <p>18. 文献読解・発表・議論</p> <p>19. 文献読解・発表・議論</p> <p>20. 文献読解・発表・議論</p> <p>21. 文献読解・発表・議論</p> <p>22. 文献読解・発表・議論</p> <p>23. 文献読解・発表・議論</p> <p>24. 文献読解・発表・議論</p> <p>25. 文献読解・発表・議論</p> <p>26. 文献読解・発表・議論</p> <p>27. 文献読解・発表・議論</p> <p>28. 文献読解・発表・議論</p> <p>29. 文献読解・発表・議論</p> <p>30. 文献読解・発表・議論</p>		
評価方法	<p>出席、取り組み、報告、レポートを総合的に評価する</p>				
教材・教科書	<p>学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版</p>				
留意点					

基礎教育科目

科目名	基礎演習			担当教員	遠藤 ゆり子
対象学年	W1年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W10303
概要	<p>[キーワード:日本史・青森県・勉強の方法]</p> <p>文献(論文や図書)の探し方や図書館の利用方法、レジュメの作り方、レポートの書き方、報告の仕方など、基本的な勉強方法について、青森県の歴史をはじめとする日本史の学習を通して学ぶ。</p>				
到達目標	<p>* 基本的な勉強方法を身につける。</p> <p>* 社会科学研究方法の基礎を学ぶ。</p> <p>* 青森県の歴史を学び、理解する。</p>				
授業の内容	<p>1.オリエンテーション</p> <p>2.文献の探し方①</p> <p>3.文献の探し方②</p> <p>4.文献の探し方③</p> <p>5.文章の読み方①</p> <p>6.文章の読み方②</p> <p>7.レジュメの作り方①</p> <p>8.レジュメの作り方②</p> <p>9. 青森の縄文・弥生時代</p> <p>10.青森の古代</p> <p>11.青森の古代・中世移行期</p> <p>12.青森の中世①</p> <p>13.青森の中世②</p> <p>14.青森の近世①</p> <p>15.青森の近世②</p>		<p>16.青森の近世史③</p> <p>17.青森の近代①</p> <p>18.青森の近代②</p> <p>19.青森の現代③</p> <p>20.津軽地方の歴史①(巡見)</p> <p>21.津軽地方の歴史②(巡見)</p> <p>22.レポートの書き方①</p> <p>23.レポートの書き方②</p> <p>24.レポートの書き方③</p> <p>25.レポートの書き方④</p> <p>26.レポートの書き方⑤</p> <p>27.論文を読む①</p> <p>28.論文を読む②</p> <p>29.論文を読む③</p> <p>30.論文を読む④</p>		
評価方法	<p>* 報告(60点)</p> <p>* レポート(40点)</p>				
教材・教科書	<p>長谷川成一ほか編『新版県史2 青森県の歴史』(山川出版社、2000年)</p> <p>その他、適宜、プリントなどを配付し、参考文献を紹介する。</p>				
留意点	<p>* 授業には必ず出席して下さい。</p> <p>* 討論など、授業には積極的に参加して下さい。</p>				

